

(様式第1号)

令和2年3月31日

陸前高田市議会議長 福田利喜 様

陸前高田市議会議員 大坂 俊



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、令和元年度政務活動の状況について報告いたします。

記

1. 調査研究事業

- (1) 実施日 令和元年12月25日～26日
- (2) 場 所 総務省自治財政局、内閣府防災担当、岩手県東京事務所他
- (3) 参加者 大坂俊 (同行；創生会：鶴浦昌也、福田利喜、佐々木一義
碧い風：菅野広紀、伊藤勇一、松田修一、小澤睦子、
大和田加代子)

(4) 行 程

12月25日 (水) 陸前高田 8:00 発→一ノ関駅 9:48 (新幹線) →東京駅 11:56
→内閣府 (13:00～15:00) →総務省自治財政局 (16:00～17:00)
→ホテル 18:00 着

12月26日 (木) ホテル 9:00 発→岩手県東京事務所 10:00→スワンカフェ 11:00
→東京駅 13:36→一ノ関駅 16:10→陸前高田着 17:30

(5) 調査項目

- ① 内閣府 (防災担当)：地域防災計画 (地区防災計画) について
- ② 総務省自治財政局：地方財政計画について
- ③ 岩手県東京事務所：陸前高田市の観光・物産 PR について
- ④ スワンカフェ：障がい者雇用の現場視察

(6) 調査の概要

- ① 内閣府防災担当 (柏木参事官) では、過去の大規模災害に対応して様々な災



害対策法制の見直しがなされ、日本が世界でも災害を受けやすい環境下にあること、特に阪神・淡路大震災以降は、ボランティアや自主防災組織の果たす役割が注目され、地域住民の間にも自助、共助の重要性が広く認識されるべきであることなどの説明があり、誰もが被災者となり得る今の時代、改めて自分たちの「地区防災力」を高めていくことが日本の防災力を高めていくことに繋がると感じました。

また、本市においては、一部の地区において地区防災計画が作られているが、柏木参事官との意見交換により、より一層のボトムアップ型計画策定の必要性を強く感じるようになりました。

- ② 総務省自治財政局では、大沢財政課長より令和2年度地方財政対策のポイントについて説明を受け、地方財政計画について意見交換を行いました。

説明によると、通常収支分における一般財源、地方交付税総額などについては、前年度を上回る予算確保となったが、地方財政の健全化を目指すため、臨時財政対策債を前年比3.6%減額し、令和2年度末残高見込みを0.5兆円縮減することを目指すとのことでありました。

本市の地方財政計画においては、臨時財政対策債について、毎年、起債限度額いっぱいの起債を行っており、今後、公債費比率が上がる傾向がみられることから、より慎重な市債管理が求められていることを強く感じるようになりました。

その他、国の財政運営の中核を成すところの財務局財政課長と地方財政対策の概要について意見交換が出来たことは、議員として貴重な経験であり、今後の議員活動の重要な糧となることを感じられる活動となりました。

- ③ 岩手県東京事務所（高橋所長・田丸裕佳子企業立地観光部長）においては、東京及び首都圏での観光・企業立地の取組についてを伺い、また陸前高田市の観光物産PRの取組等について意見交換を致しました。

説明によると、震災以降、復興の取組と併せ観光・物産販売PRを行っているとのことであり、特産品販売からイベント、観光案内まで、首都圏における「いわて銀河プラザ」の存在価値を改めて感じさせられるところでありました。

- ④ スワンカフェ（障がい者雇用の現場）では、障がい者雇用の場を作り、自立と社会参加、働く喜びと幸せを感じられる社会を実現する現場に立って働く方々が生き生きと仕事とする場を見学させて頂きました。

「共生」が当たり前のように実践されており、交流と共生のまちを目指す本市にとって、あるべき姿の一つと感じられる現場視察となりました。